

## 緑の担い手

# 緑の雇用二年目 研修を終えて

堀江林業

堀江慶佑



私は株式会社堀江林業に勤めています。以前は東京で生活していましたが、林業という家業をもって生まれたこと、それはもしかしたら幸運なのかもしれないと考えるようになりました。どうなるかはわからないけれど、ひとまず体一つで飛び込んでみようとするこの業界に足を踏み入れました。

この仕事で日々思うことは、単純な作業の奥深さです。

木を切って倒す、倒した木を集める、ハーベスタで造材する、それを土場まで運ぶ。

先輩方がしている一つ一つの仕事、傍目には何気ない事のように見えますが、実際にやってみると細や

かな技術や安全への気遣いがあることに気づかされます。

しかしこれらの技術の習得の難しさとは別に、次の仕事にどのような受け渡すか、という別の難しさがあります。一つの作業はそれだけでは完結しておらず、一連の流れの中の一工程に過ぎません。

伐倒にしてもただ倒すだけなら素人でもできると先輩は言います。それだけではなく、どう倒したら集材の人が楽か、と考える倒さねばなりません。そしてさらに集材の人は造材の人が楽に仕事ができるように、と考える集材をします。そうなる造材についても考えを巡らせねばなりません。常に次の事、次の事を考えていくと、最終的に現場全体について考えて行動せねばなりません。今どうするのがベストか？いつも現場で悩みますが、答えが一瞬で出ることではなくまだまだ先は長いな、と思わされます。

また、緑の雇用での様々な研修は搬出中心の今の会社では経験できない地拵えや植え付けなどを体験でき、林業という仕事全体について考えるいい機会になります。

何十年も昔に誰かが植えた木、それを今自分たちが伐採し出荷し、そして木は加工され社会へと還元されます。

今、自分がやっている仕事は誰かが用意してくれたものだな、と思うと普段の仕事も安易にはできなくなります。

自信をもって次の人、次の会社、次の世代に自分の仕事を受け渡せたいと思います。